

2025 年 12 月 2 日

公益財団法人イノベースト 御中

見本

助成金交付申請書

助成金の交付を受けたく、関係書類を添えて申請します。

【添付書類】(該当しない場合は添付不要)※添付した資料にはチェックを入れてください。

1 企業等の団体に対する添付資料

- ☐ 会社(団体)案内、製品やサービスのパンフレットなどの事業内容がわかる資料(必須)
- ☐ 事業計画の具体的資料(事業計画書、特許関連資料、写真や図)(任意)
- ☐ 設立3年以上の企業の場合、直近2期分の決算書類(貸借対照表、損益計算書、ある場合はCF計算書)の写し、3年未満は直近の決算書類の写し、NPO法人などその他の法人の場合、直近の財務状況がわかるもの(企業は必須、その他は任意)

2 個人に対する添付資料

- ☐ 製品やサービスのパンフレットまたはそれらの特徴についてまとめられた資料(必須)
- ☐ 事業計画の具体的資料(事業計画書、特許関連資料、写真や図)(任意)
- ☐ 住民票の写し(必須)

<申請者> サンプル太郎
 〒123-4567
 住 所 大阪府大阪市〇〇町×-×-×
 (ふりがな) さんぷるかいしゃ
 会 社 名 サンプル株式会社
 代 表 者 氏 名 サンプル太郎
 役職名 代表取締役

申請内容については、当審査委員会規程に則って厳正に審査を行い、みだりに第三者に開示することはありません。また、記入いただいた個人情報について、第三者への開示は、法令に基づく開示など特別の場合を除き、審査目的を超えて開示しません。ただし、助成制度の案内など財団の事業活動の範囲内において利用しますので、ご了承ください。尚、選考結果およびその理由等に関するお問い合わせには応じかねますので、ご了承ください。

助成対象事業名	地域高齢者向けAI見守り・コミュニケーション支援サービス事業
事業の要約	(製品・サービス等の特徴や社会的有意性などを簡潔に記述してください)
	<p>本事業は、高齢者の孤立や日常的な見守り不足といった社会課題に対し、AI音声対話技術を活用した見守り・コミュニケーション支援サービスを提供するものです。専用端末を通じて高齢者と自然な会話をを行い、日々の体調や生活状況の変化を把握することで、異常の兆候を早期に捉えることを目的としております。</p> <p>本サービスは、操作の負担を極力抑え、高齢者が特別な意識を持たずに利用できる点を特徴としております。会話データや生活リズムの情報はAIにより解析され、必要に応じて家族や関係者へ共有される仕組みとなっており、高齢者本人の安心感と、見守る側の安心感の両立を図ります。</p> <p>また、従来の見守りサービスのような監視的な仕組みではなく、日常的なコミュニケーションを通じて見守りを行うことで、心理的負担の軽減や孤立感の解消にも寄与します。本事業を通じて、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる環境づくりに貢献してまいります。</p>

1. 企業等の団体の概要

※個人の場合は記入不要、但し自営業の場合は企業として可能な範囲で記入下さい。

①企業の概要

会社または 団体名	サンプル株式会社				
住所	〒xxx-xxxxx 大阪府大阪市〇〇町x-x-x				
代表者名	サンプル太郎(xx 歳)	設立	xxxx年xx月	資本金	10百万円
電話番号	xx-xxxx-xxxx	連絡者名	サンプル太郎		
E-mail	xxxx@xxx.co.jp	従業員数	社員 xx 名(内パート 名)		
業種 事業内容	業種: 情報通信業 事業内容: AI・IoT技術を活用した高齢者支援サービスの企画・開発・運営				

②NPO法人等の団体の概要

団体名					
住所	〒				
代表者名	(歳)	設立	年 月		
電話番号		連絡者名			
E-mail		従業員数	社員 名(内パート 名)		
業種 事業内容					

2. 代表者の履歴書(個人の場合は申請者の履歴書)

[illegible]

3. 事業の経緯

(1) 起業(事業開始)の動機、沿革

(2) 代表者の経営理念、ビジョン、目標

(1) 起業(事業開始)の動機、沿革

日本では高齢化の進行により、高齢者の単身世帯や高齢者のみ世帯が増加しており、日常的な見守り体制の不足が社会的課題となっております。特に都市部では、家族による見守りが難しいケースが増えております。

IT・システム開発に長年携わる中で、テクノロジーが高齢者支援に十分活用されていない現状に課題意識を持ちました。また、身近な家族の高齢化をきっかけに、日常生活の中で自然に見守ることができる仕組みの必要性を強く感じるようになりました。

既存の見守りサービスは、緊急時対応や機器設置に重点が置かれているものが多く、高齢者本人の心理的負担や孤立感の解消まで十分に対応できていないと考えております。そこで、日常会話を通じて見守りとコミュニケーションを同時に行えるサービスの開発を構想いたしました。

2019年頃より高齢者支援分野の調査や関係者へのヒアリングを重ね、2021年に株式会社ミライ創造を設立し、本事業を本格的に開始いたしました。現在は試作機の開発および実証実験を進めており、社会実装に向けた改良を行っております。

(2) 代表者の経営理念、ビジョン、目標

「テクノロジーによって人の孤立を防ぐ」ことを理念としております。本事業では、AI技術を活用し、高齢者が安心して地域で暮らし続けられる環境づくりを目指しております。

将来的には、大阪府内を中心に自治体や福祉事業者と連携し、地域全体で高齢者を支える仕組みへと発展させていきたいと考えております。本助成金を活用し、サービス品質の向上と事業の社会的有用性の実証を進めてまいります。

4. 製品、サービスなどの事業内容について

(1) 具体的内容(営利法人ではない場合、具体的活動内容)

本事業では、AI音声対話技術とクラウドシステムを活用し、高齢者の日常生活を見守るコミュニケーション支援サービスを提供いたします。専用端末を通じて、利用者と自然な会話を行うことで、日々の体調や生活状況を把握し、異常の兆候を早期に検知する仕組みとなっております。

本サービスは、操作が簡単であることを重視しており、高齢者が特別な操作を意識することなく利用できる点が特徴です。会話内容や生活リズムの変化はクラウド上で解析され、必要に応じて家族や関係者に情報を共有することが可能です。これにより、高齢者本人の安心感を保ちながら、周囲による見守りを実現いたします。

現在は試作段階であり、小規模な実証実験を通じて、利用者の反応や実際の使用環境に即した改善を進めております。

(2) 新規性または特徴について(営利法人ではない場合、活動の特徴や独自性)

本サービスの最大の特徴は、「見守り」と「コミュニケーション」を一体化して提供している点にあります。従来の見守りサービスのように監視を目的とするのではなく、日常的な会話を通じて自然に利用者の状態を把握することで、心理的負担を軽減しております。

また、AIによる会話データと生活リズムの分析を組み合わせることで、利用者ごとの変化を継続的に把握できる点にも新規性があります。これにより、急な異変だけでなく、徐々に現れる体調や生活習慣の変化にも対応することが可能となります。

本事業は、高齢者本人の生活の質の向上と、家族や地域の安心感の両立を目指すものであり、地域福祉の課題解決に貢献できるサービスであると考えております。

【任意】知的財産権の取得状況(簡記のうえ関係資料を添付してください)

特許、実用新案、意匠登録、商標登録など、知的財産権の取得状況(出願含む)について

出願日/出願番号/特許・実用新案の場合は発明の名称を記載してください。

5. 助成金の使途と計画について (できるだけ具体的に記入してください)

本助成金は、本事業を社会実装へと前進させるための基盤整備および実証段階の強化を目的として活用いたします。現在は試作および小規模な実証段階にあるため、サービスの品質向上と実用性の検証が喫緊の課題となっております。

具体的には、AI音声対話システムの精度向上および安定化を図るためのシステム改良・開発費に充当いたします。利用者の会話内容や生活リズムをより正確に把握するため、解析アルゴリズムの改善やデータ処理環境の強化を行う予定です。

また、実証実験の拡充に向けて、専用端末の追加導入や通信環境の整備などの機器導入費として活用いたします。これにより、複数の利用環境における検証を行い、サービスの汎用性や再現性を高めてまいります。

さらに、実証実験に参加する高齢者や関係者への説明・導入支援に係る費用にも活用いたします。利用方法の説明や初期設定のサポートを丁寧に行うことで、継続的な利用につなげ、実際の運用に即した課題抽出を行います。

本助成金を通じて得られた検証結果をもとに、サービス内容の改善と事業モデルの確立を進め、将来的な本格展開および地域連携へとつなげていく計画です。

6. 事業に対する熱意について

本事業は、単なるサービス開発ではなく、高齢者が安心して暮らし続けることのできる社会を実現するための取り組みであると考えております。代表者自身、身近な家族の高齢化を通じて、日常の中で孤立や不安を抱える高齢者の現状を実感しており、その課題を解決したいという強い思いから本事業に取り組んでおります。

高齢者支援の分野では、制度や人手だけでは対応しきれない課題が年々増加しており、テクノロジーの活用が不可欠であると感じております。しかしながら、技術ありきのサービスでは、利用者に受け入れられず、継続的な利用につながらないケースも少なくありません。そのため、本事業では「使いやすさ」と「心理的な安心感」を最も重視し、利用者の声を丁寧に反映しながら開発を進めております。

これまでの試作や実証実験を通じて、本サービスが高齢者本人だけでなく、家族や関係者にとっても安心につながるものであることを実感してまいりました。一方で、社会実装に向けては、さらなる検証と改良が必要であり、資金面の課題も大きいのが現状です。

本助成金を活用することで、事業の完成度を高め、実際の現場で役立つサービスとして確立していきたいと考えております。地域社会に必要とされ、長期的に継続できる事業として責任を持って育てていく決意であり、本事業に全力で取り組んでまいります。

7. 【任意】各種助成金・補助金利用状況(申込中を含む)

(単位:百万円)

認定日(申込日)	種 類	金 額	内 容

※他の助成金や補助金を利用していない場合は記入不要

8. 申請分野

本申請に該当する分野の番号を記載してください。(③ 情報通信分野 ⑩ 地域貢献分野)

- ①医療・福祉分野 ②生活文化分野 ③情報通信分野 ④新製造技術分野 ⑤流通・食品分野
 ⑥環境・バイオ分野 ⑦ビジネス支援分野 ⑧飲食分野 ⑨人材・教育分野 ⑩地域貢献分野
 ⑪観光分野 ⑫その他()

9. 当財団の助成金事業を知った経緯

イノベースト様の公式Xにて、助成金事業に関する投稿を拝見したことをきっかけに、本助成金事業を知りました。投稿内容を通じて、社会課題の解決に挑戦する事業を支援されている点に強く共感し、当社の事業趣旨とも合致していると感じ、応募を決意いたしました。

以 上